

# 住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第33号 9月10日  
 発行 住友化学・住化武田農薬  
 お客様相談室 0570-058-669  
 編集者 古津 昇  
 発行責任者 原 正樹

## 目次

農家さん訪問記⑱	p. 1
住友化学の《スーパーSRコート》について (その3)	p. 5
りんごの病害虫チョットいい話(7)	p. 6
住化アグログループ紹介 住化農業資材(株)	p. 7
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p. 8
今月のお奨め農薬	p. 9
農薬登録情報	p. 10
病害虫発生情報	p. 12
今月のご相談から	p. 13
最近の「お・・美味しい!」	p. 14
コラム・そば談義	p. 15
編集後記	p. 15



「ヒガラ (シジュウカラ科) とハナイカダの実 (ミズ科)」技術顧問 富樫作

## 農家さん訪問記

### 「べにふうき緑茶」を徳之島の特産に!

今回の農家さん訪問記は、鹿児島県徳之島からお届けします。

徳之島は奄美群島の中央部に位置し、鹿児島から 460 キロ離れています。島からは飛行機やフェリーで鹿児島まで出なければならず、交通費も大変です。東京をはじめ大都市からの直行便はありません。これまでの農家さん訪問記で訪れた農家の中で、最も東京から離れており、ゴルフでいうところの超ロングホールでドラコンをとった感じだねと冗談を言われました。

### 尚子ロードと闘牛そして人情の厚い島!

農家さんにインタビューする前に、天城町役場の森田課長に徳之島の概要を伺いました。徳之島は人口 27,600 人余りの島で、海岸線付近を除いて平坦な所は少なく、標高 600 メートル前後の山があります。島の耕地面積 6,500 ヘクタールのうち7割以上をさとうきびが占めており、その他には馬鈴薯、牧草などが栽培されています。畜産も盛んで、特に、BSE問題から国産牛の需要増もあり、子牛を育てて本土各地に出荷しています。徳之島は、闘牛でも有名です。普通の肉牛は霜降り肉を多く育てるのですが、闘牛



は筋肉質で脂肪の少ない牛に育てます。

また、最近では陸上競技の長距離での合宿所として知られています。それと言うのも、シドニーオリンピックのマラソンで優勝した高橋尚子選手がこの地で練習していたからです。尚子ロードと書かれた記念碑も立っています。それに昭和の大横綱である朝潮太郎(46代目)が育った地でもあります。

また、家を空ける時に鍵をかけないところが多いとのこと。それだけ島中が安全で、島民の皆さんが温和であることが伺えます。一方で、島民の悩みとして、物価が高いことがあげられます。平均の物価は本土の1.3倍です。ガソリンの価格は1リットル当たり170円です。

## お茶はさとうきびとの複合経営が可能！

この島で初めてお茶(品種「べにふうき」)栽培に取り組んでいる豊村友二さん(53歳)にインタビューしました。



家族構成は奥様と長男、長女の4人家族です。豊村さんは徳之島茶研究会(会員数13名)の会長で、建設業との兼業農家です。建設業は兄弟3人で経営しているので、建設業を弟さん二人に任せて、豊村さんは茶業に重点を置いています。建設業は公共事業の縮小により収入が減り、主な作物であるさとうきびも、以前は10アール当たり7~8トンの収穫が、基盤整備後は地力が落ちて5~6トンに減収してしまい、トン当たり2万円の粗収入では利益が出なくなりました。そこで冬に収穫するさとうきびと農繁期が重ならない作物の

導入を考え、春~夏に収穫するお茶を選んだとのこと。

お茶を選んだ理由は、徳之島の主幹作物であるさとうきびとの複合経営が可能です。茶は夏期に安定して栽培・収穫できること、成園時には強風に耐えうる作物であることもお茶を選んだ大きな理由です。また、島では、赤土流出による海の汚染が問題になっていますが、お茶の場合は根がしっかりと地面を支えるため、この問題を起こしにくいこともポイントです。

## 花粉症に有効なメチル化カテキンを多く含む「べにふうき緑茶」!

さて、「べにふうき」は、農水省の野菜茶業試験場枕崎支場が1992年に育種登録した紅茶系品種です。母親が「べにほまれ」、父親が「枕Cd86」という品種です。もともと紅茶用の品種ですが、緑茶に加工してもふくよかな香りと独特の渋味をもつお茶に仕上がります。寒さに弱いのが欠点ですが、徳之島は亜熱帯なので寒さの心配はありません。また、多収で樹勢が強く、病害(輪斑病・炭疽病)に強いことが特長です。

最初は「べにふうき」で紅茶を製造する予定だったそうですが、緑茶に変更しました。「べにふうき」には抗アレルギー成分である「メチル化カテキン」が多量に含まれており、花粉症などのアレルギーに効果が高いと言われていますが、紅茶作りの工程の一部である発酵工



程を経るとこの「メチル化カテキン」が分解され、せつかくの長所が台無しになってしまうからです。また、飲料品大手のアサヒ飲料がその効果に注目して機能性緑茶飲料「べにふうき緑茶」<http://www.asahiinryo.co.jp/benifuuki/index.html>として販売するという需要が見込まれたことも大きな理由です。既に、アサヒ飲料とJA鹿児島茶業、JA鹿児島茶業と農家とは10年間の供給契約を結んでいます。もちろん、医薬品ではありませんから、花粉症の効果を謳うことはできないので「春のスッキリ対策」というキャッチコピーをペットボトルに印刷して販売しています。後は、飲んだ人の口コミに期待しています。キーワードは健康飲料です。今年は、首都圏を中心とした試験販売と、ネット販売を通じて10万ケースのペットボトルはすぐに完売しました。因みに、「べにふうき」の機能性を発見したのは、2000年頃で、静岡県金谷町にある農水省野菜・茶業研究所の山本万理主任研究官です。

## 亜熱帯気候では茶の摘採が3年で可能！

お茶は本土では成園になるのに5年かかりますが、徳之島では3年で摘採が出来るようになります。

茶園の仕立て方も特長があります。お茶の品種として一般的な「やぶきた」ではかまぼこ型のドームのような形に仕立てますが、一方「べにふうき」は幅1.5～1.6メートル位の羊かん型に仕立てて、乗用の刈り取り機に適したものとなっています。収穫は4、6、8、10月の年4回行われます。「メチル化カテキン」の量は6月（二番茶）と8月（三番茶）に比較的多いとのことです。また、徳之島で育てた「べにふうき」には、本土に比べて「メチル化カテキン」の含有量が多いのが特長です。



今年の「べにふうき」の栽培面積は6.2ヘクタールに達しました。その内、豊村会長さんは2ヘクタールを栽培しています。収穫量は成園で、荒茶として10アール当り800キロから、少ない人で10アール当り500～600キロです。まだ成園は少ないですが、去年は7トン、今年は14～15トンの収穫を見込んでいます。また、島の発展のために他の農家の人もお茶を栽培してくれるようになるとうい豊村会長は考えています。将来は徳之島茶研究会全体で50ヘクタールに増やすのが目標だそうです。

## 普及所の指導と会員の努力でお茶栽培に成功！



でも、ここまでの道筋は平坦ではありませんでした。

お茶を製造して出荷するには、まず製造工場と最低5～6ヘクタールの茶園が必要です。サトウキビしか作ることがない島で「お茶の栽培とは全く無謀で、成功するはずがない」という冷ややかな声が大半でした。会長さんらは「絶対成功させてみせるぞ」という強い団結のもと普及センターの指導を受けながら試行錯誤して栽培に取り組んできました。

しかし、2001、2002年度試験栽培で植え付けた茶園はほぼ全滅。干ばつ、排水性、土質、

加えて台風による強風、塩害と全滅した要因は数限りなくあります。そこで、試験栽培の失敗を糧に2003年度は研究会で2ヘクタール植付けました。その後順調に栽培面積を増やし、前述の通り今年は6.2ヘクタールになりました。栽培上注意する点は、台風による塩害です。塩害を防ぐため、畦間にソルゴー、陸稲などを植えます。さらに、塩害対策として、高台を選んで茶を栽培しています。高台は台風による塩害を防ぐほかにも、酸性土壌なので茶栽培に適しています。一方、高台には灌水施設がないので、水をタンクに汲んで水やりをするのも大変な作業です。その問題を解決するために現在、徳之島ダムが建設されています。ダムは平成24年頃に完成予定で、島内の耕地面積6,500ヘクタールのうち約半分に当たる3,500ヘクタールに灌水できるようになる見込みです。

## お茶栽培の導入で活力ある島に期待！

多くの農家が抱えている後継者問題ですが、会長さんの家では大丈夫です。

25歳になるご長男が大阪からUターンして、3ヶ月間鹿児島県茶業試験場で研修し就農しました。また、昨年4月には自己資本で荒茶工場を建て、工場の仕事は全て任せているそうです。そんなことで、息子さんが農業経営に加わったことに会長さんは大変喜んでます。

さとうきび栽培だけの農家だと冬に年1回の現金収入しかありませんが、茶との複合経営ができるようになれば、茶が春から夏にかけて4回現金が入ってきます。また、畜産との複合経営も十分可能で、排泄物は堆肥としても活用できます。さらに、これからの夢として、「べにふうき」が輸出されるようになれば、大きな需要が見込めます。

昔からこの島では、農家に娘を嫁がすと苦労するのでだめだと言っていましたが、「べにふうき」のような収益率が高いものを加えれば、娘が茶農家に嫁いで行くようになるのではと会長の顔から思わず笑みがこぼれます。



粗茶工場内部

## あとがき！



鶏飯

取材を終えて、豊村会長のお宅で摘みたての「べにふうき緑茶」と徳之島産のマンゴーをご馳走になりました。「べにふうき」は独特の渋みがあって飲みやすい味でした。

昼食は鶏飯という、鶏肉をご飯にのせてその上にだし汁をかけた奄美の名物を食べました。夏場の食欲が進まない時期でもお茶漬けのように食べられるあっさりした味でした。それに、取材した日の夜が6年ぶりの

月食の日に当り、全国的に曇りのなか鹿児島県地方は晴れで、貴重な天体ショーを見ることができました。（鈴木、古津）

最後に、弊社の牧野技術顧問が徳之島農業改良普及所所長時代に、豊村さんに茶栽培を指導したことがきっかけでインタビューができました。

[目次へ戻る](#)

## 住友化学の スーパーSRコート について (その3)

今回は、秋冬作に向けて、住友化学の園芸用・畑作用スーパーSRコートの推奨銘柄について一部ご紹介させていただきます。各種作物・地域・作型に応じて、複数の銘柄を取り揃えております。

### 4. 園芸用・畑作用スーパーSRコートの推奨銘柄の特長

果菜用スーパーSRは、栽培期間が長い果菜用に生育初期から収穫終了まで、生育に適した肥効をしっかりと持続します。葉菜用スーパーSRは、定植後の活着を促進し、収穫まで葉色を維持して、品質を高めます。根菜用スーパーSRは、作物の生育に合わせ、地上部の生育および根部の肥大を促進します。追肥の手間も省け、太り、揃いが良くなります。穀物用のスーパーSRは、初期に効く化成肥料と中～後期に効く被覆肥料を組み合わせ、ムギの生育に合うように肥効が持続します。

表. 園芸用・畑作用スーパーSRコート推奨銘柄一覧

作物群	対象作物	銘柄	組成			地域	作型
			N	P	K		
果菜類	ピーマン・キュウリ・ナス・トマト・イチゴ	スーパーSMコート570	15	7	10	全国	促成 (他の元肥と併用)
	ピーマン・キュウリ	有機入り果菜用902(L)	19	10	12	東日本	促成
	イチゴ	有機入りイチゴ用010	10	11	10	全国	促成
葉菜類	ネギ	越冬ネギ専用733	17	13	13	全国	越冬栽培
	ネギ	葉菜根菜203(年内)	22	10	13	全国	秋冬年内どり
	ネギ	葉菜根菜072(L)	20	17	12	全国	夏～秋まき
	ネギ	葉菜根菜203(年明け)	22	10	13	西日本	秋冬年明けどり
根菜類	タマネギ	タマネギ用672	16	17	12	西日本	秋植え
	ゴボウ	ゴボウ用723	17	12	13	西日本	秋～冬まき
穀類	ムギ	ムギ用077(S)	30	7	7	九州	秋冬まき
	ムギ	ムギ用077(M)	30	7	7	西日本 (除く九州)	11月まき
	ムギ	ムギ用077(L)	30	7	7	西日本 (除く九州)	10～11月まき

### 肥料用語解説(その3)

化成肥料とは・・・窒素、リン酸、カリの中で2種類以上を含み(複合肥料) 肥料若しくは肥料原料に化学的操作を加えて製造されるもの、又は原料肥料を配合して、造粒若しくは成形したものをいいます。通常は粒状品であり、我が国で大量に流通しています。

高度化成肥料とは・・・通常、肥料の3要素の合計成分量が30%以上の化成肥料を指します。

低度化成肥料とは・・・通常、肥料の3要素の合計成分量が30%未満の化成肥料を指します。

スーパーSRコート製品チラシ：[http://www.i-nouryoku.com/prod/hiryou/ssr/ssr\\_engai.html](http://www.i-nouryoku.com/prod/hiryou/ssr/ssr_engai.html)

[目次へ戻る](#)

## りんごの病害虫チョットいい話 (7)



## ボルドー液を中止して増えた病害！

## その2. 輪紋病

前回、「褐斑病」がボルドー液散布体系を取りやめることにより発生が多くなったことをお話しましたが、これとよく似た病害に「輪紋病」があります。

昭和40年代になって、これまでりんごの二大品種であった「国光」「紅玉」が暴落し、これに代わってゴールデンデリシャス(以下ゴールデン)とスターキングデリシャスの植栽が増えてきました。40年代半ばは、とりわけ秋田県南部のりんご栽培地域でゴールデンが栽植割合50%を超えるほどになりました。

この地域はゴールデン特有のサビ果発生が少なく、良品の果実が生産されることから、全国に知られた本品種の生産地になりました。外観が綺麗な果実を生産するには小袋、大袋と2回の袋掛け作業を強いられるため、地元農協が欧米にならって無袋栽培をすることにし、そのため果面を汚すボルドー液の使用を中止するとともに、有機殺菌剤による防除体系を採用しました。採用後間もなく、収穫が近づいた8月下旬頃から「炭疽病」に似た果実腐敗性の病害がゴールデンに多発するようになり、地元では大問題になりました。当時、果実での輪紋病は知られておらず、発病が始まって間もなくから各種薬剤の防除試験を行っても、病勢を全く抑えることが出来ずお手上げの状態、病名も果実に形成された柄胞子から不完全世代の *Macrophoma* 属果実腐敗病(仮称)と呼んでいました。

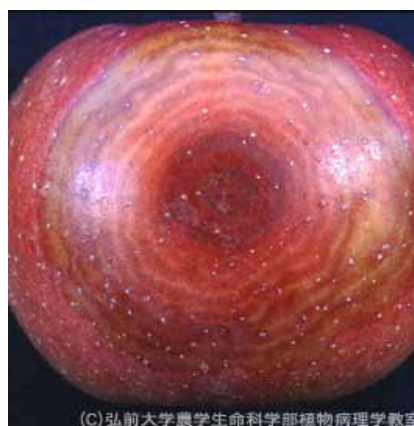
その後分離菌の接種、被除袋法などから感染は発病時期よりずっと早い6月中下旬頃から始まり、8月下旬頃に終息することが分かりました。

今では各県ともボルドー液の使用が減り、輪紋病はゴールデンの血が入った「つがる」「ジョナゴールド」などの品種を主体にりんごの主要な果実病害になっています。当初ボルドー液に近い防除効果を示す殺菌剤が少なかったのですが、現在ではTPN剤、有機銅剤、ストロピルリン系剤など効果の高い剤が多くあり防除に失敗する例は少なくなりました。

本病は比較的高温を要求する菌で、胞子が枝に形成した「いぼ」から雨滴に混じり拡散するので、防除に当たっては特に梅雨時期の散布間隔が長ならないよう留意することが重要になります。(技術顧問 水野)

今回は「炭疽病」について触れたいと思います。

病害写真提供：弘前大学農学生命科学部・植物病理教室より



(C)弘前大学農学生命科学部植物病理学教室



(C)弘前大学農学生命科学部植物病理学教室

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

## 住化農業資材(株)

## ミスト穿孔によるサイド灌水の決定版！

## 好評！「ミストエースS54・S72」

当製品は、ハウスのパイプ支柱に専用の「パッカー一式吊り具」で敷設し、ハウス両サイドから全面灌水する散水チューブです。発売以来、全国のユーザーの皆様から大変好評を頂いております。

適応用途はホウレンソウ、コマツナなどの軟弱野菜、水稻育苗、イチゴの育苗・活着促進などと広範囲にわたり、以下にその特長を簡単に紹介します。

①特殊穿孔により水滴が霧状に分散し、ハウス全体を満遍なく優しく灌水します。

(霧状の細かい水滴だから作物に優しく、長時間の灌水が可能です。使用圧は0.1～0.14MPa)

(発芽の揃いが期待できます)

②ハウスサイドに設置しますので、敷設・撤収の繰り返しが必要で作業性が良く、また、頭上設置の灌水資材に見られるような作物上へのボタ落ちの心配もありません。

(作業の省力化に貢献します)

③配管資材を含めた設置コストが割安です。

一方、敷設に使用するパッカー式吊り具はハウス支柱のサイズにあわせて種類を揃え、またアーム部も短いSタイプと長いLタイプの2タイプがあります。(写真参照)

**Sタイプ・・・19S、22S、25S、28S、32S**

**Lタイプ・・・22L、25L、32L**

パッカー式吊り具は、写真の通りパッカータイプで設置作業が簡単です。通常、ハウス支柱1本おきに吊り具を配置します。

(50mハウス1棟に、約100個使用します)

このようにミストエースSは、「一番の特長の優しいミストの全面散水」、「作業性の良さ」「設置作業が比較的簡単」「コストの割安感」とハウス内全面散水には理想的な散水チューブと言えます。

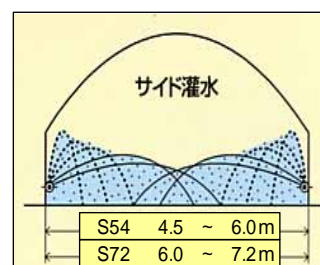
※尚、ミストエースSの使用には、目詰まり防止の為、100メッシュ以上の「ろ過器」を必ず御使用ください。



水稻育苗にミストエースS散水中

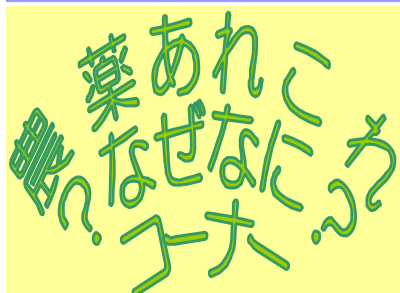


パッカー式吊り具 上がLタイプ、下がSタイプ



散水図

[目次へ戻る](#)



## 登録作物の多い 薬剤の「ラベル」 には要注意！

### ご質問

御社の殺菌剤「ベンレート水和剤」の100g包装ラベルには「ばら、チューリップ」などの記載が見当たらないようですが、これらには使えないのでしょうか？販売店で勧められて購入したのですが・・・？

### お答え

ベンレート水和剤の袋の裏には、使用できる作物や使用方法の一覧が表示されていますが、ご質問のように「ばら、チューリップ」は見当たりません。ですが、ベンレート水和剤は「ばら」にも「チューリップ」にも登録があり、ご使用いただけます。

では、登録内容はどこに書いてあるのでしょうか。実は、袋の底を開くと、裏面には書ききれなかった適用一覧表が出てくるのです(図-1、図-2)。「ばら」も「チューリップ」もここに記載されています。

こんなに細かく書かなくても、と思われるかもしれませんが、実は、「農薬の安全使用のため、農薬容器に使用基準(作物、適用病害虫、使用方法、使用時期、総使用回数)を表示しなければならない」と、法律で決まっています。

ですから、適用作物が多い農薬の場合、容器が小さいと、容器の表面には書ききれないので、様々な工夫をしています。ボトルによくあるのは「巻き物」タイプです。ラベルが巻きつけてあり、「はがし口」から開くことで広げることができます(図-3)。弊社剤では、他にダコニール1000やスミチオン乳剤などがこのタイプです。

不便なのは、購入前にラベル記載内容の全てを確認できないことです。特に、初めて購入する農薬については、登録内容をお店でご確認ください。弊社製品の場合、登録内容は i-農力サイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html> で確認できますので、こちら



図-1 こんな所に適用表が！



図-2 開くと出てきます



図-3 「巻き物」タイプのダコニール1000。はがした部分の裏側にも、適用表が印刷されています！

もご活用ください。

(佐伯、南)

[目次へ戻る](#)



今月のお奨め農薬

## 秋冬作「はくさい」の病害虫

### 軟腐病・黒斑細菌病、コナガなどの防除方法！

今月のお奨め農薬では、秋冬作のはくさいの病害虫防除について説明いたします。

秋冬作栽培は、はくさいに適した時期でもありますが、台風の大雨や秋の長雨で、水はけの悪い畑では根腐病が発生しやすく、また、高温多湿条件では軟腐病、低温多湿では黒斑細菌病が多くなります。連作ではネコブ病、黄化病などの土壌病害が発生します。土壌病害の軽減の為には輪作をして土壌消毒の労力・経費を少なくしたいものです。

はくさいの主要病害は糸状菌の白斑病・べと病・白さび病ですが、これらには「ダクニール 1000」が有効です。結球開始期からの総合防除剤として使用してください。また、防除の難しい軟腐病・黒斑細菌病には、有効な薬剤のローテーション防除が必要です。「バリダシン液剤 5」は病原性細菌に対しユニーク

な作用を持つ薬剤です。軟腐病に対しては結球初期より早めの時期に散布を開始します。散布後、「バリダマイシン」が茎葉から吸収され導管内の細菌の増殖を抑制しますので早めの散布が効果的です。また、高温時の薬害もほとんどありません。次に、「スターナ水和剤」は予防防除で使用すると、軟腐病・黒斑細菌病に効果を発揮します。「スターナ水和剤」の成分であるオキシリニック酸とストレプトマイシンとの混合剤の「マテリーナ水和剤」は予防と治療の効果があります。幼苗期と高温時では、マイシン剤による薬害（クロロシス）が発生するおそれがありますのでこのような時期には使用を避けます。

害虫ではコナガやヨトウムシが重要な害虫で、薬剤抵抗性の問題があるので作用の異なる薬剤でのローテーション防除が必要です。コナガはアブラナ科の野菜や雑草に被害し、25℃の条件では卵→幼虫→蛹→成虫までの世代交代が15～16日と短く、抵抗性が発達しやすい害虫です。関東以西では春～初夏と秋に、東北では夏期に発生が多くなります。年間の世代交代が多く、同一薬剤の連用は効果低下をもたらしますので、作用の異なる系統の薬剤でのローテーション防除をお奨めいたします。

弊社品でのお奨めはネライストキシン系統では「パダンSG水溶剤」です。本剤はコナガの殺卵・殺幼虫・殺成虫作用が強く全世代を一度に防除することができます。従来剤には無かった新しい作用性を持つ「プレオフロアブル」には優れた効果と残効性があり、従来の薬剤で抵抗性を獲得したコナガにも良く効きます。また、大型りん翅目害虫のヨトウムシやオオタバコガに対しても高い効果があります。BT剤系統には「エスマルクDF」「ゼンターリ顆粒水和剤」「フローバックDF」が有ります。合ピレ剤系統では「アグロスリン水和剤」「アディオン乳剤」があり、これらの系統の薬剤と有機リン剤系統とのローテーションが、抵抗性を発達させない防除方法です。

(富樫)



べと病

白斑病

[目次へ戻る](#)

**農薬登録情報**

&lt; 8月15日と9月5日にあった主な適用拡大の内容です &gt;

**適用拡大****いろいろな薬剤の適用拡大がありました**

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか
殺虫 剤	スミチオン乳剤	作物追加	飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000倍 収穫30日前まで 2回以内 散布
		作物名変更	つつじ類	「つつじ」及び「さつき」を 「つつじ類」に変更	
	ダントツ E粉剤DL	使用時期 変更	稲	収穫14日前まで⇒ 収穫7日前までに変更	
		害虫追加	だいず	マメシクイガ	4kg/10a 収穫7日前まで 3回以内 散布
	ダントツ フロアブル	希釈倍率 使用液量 追加	稲	ウンカ類 カメムシ類	1250倍、25L/10a 収穫14日前まで 3回以内 散布(乗用型の速度連動式地上液 剤少量散布装置を使用)
		使用方法 追加	だいず	アブラムシ類 カメムシ類	24倍 800mL/10a 収穫7日前まで 3回以内 無人ヘリコプターによる散布
	ダントツ水溶剤	作物追加	とうがん	シキイロアザミ	2000倍 100~300L/10a 収穫3日前まで 3回以内
			食用へちま	アブラムシ類	2000倍 100~300L/10a 収穫前日まで 3回以内
			パパイア	カガカカカラムシ ヒラカカカカラムシ	2000倍 200~700L/10a 収穫3日前まで 3回以内
	殺菌 剤	住化ゲッター 水和剤	使用回数 変更 使用液量 変更	レタス	使用回数:「1回」⇒「2回以内」に変更 使用液量:「150~300L/10a」⇒ 「100~300L/10a」に変更
使用液量 変更			以下の作物の使用目的「散布」について 使用液量が「150~300L/10a」⇒「100~300L/10a」に変更 えんどう、さやえんどう、実えんどう、トマト、ミニトマト、なす、きゅうり、 ずい、ズッキーニ、花き類、観葉植物、ひまわり、ゼラニウム、ハイドラシス、 やなぎ、たけ		
STダコレート 水和剤		使用時期 追加	稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌)	800~1200倍 は種時から緑化期 但し、は種14日後まで 2回以内 育苗箱1箱当り1Lを灌注

殺菌剤	ベンレート水和剤	病害追加	たまねぎ	灰色かび病	2000倍 収穫前日まで 6回以内 散布
		使用方法追加		乾腐病	1g/1kg 培土 は種前 1回 育苗培土混和
殺虫殺菌剤	ダントツオキサメート 10箱粒剤	害虫追加	稲 (箱育苗)	ニカメイチュウ	育苗箱1箱当たり50g 移植3日前～移植当日 1回 育苗箱の苗の上から均一に散布
	ビームダントツ H粉剤DL	害虫追加 使用時期 変更	稲	ニカメイチュウ フタオビコヤガ イネツトムシ	3～4kg/10a 収穫7日前まで 2回以内 散布
除草剤	アグロス クリンチャー 1キロ粒剤	使用時期 変更	移植水稻 直播水稻	収穫40日前まで 収穫30日前まで	
		適用地帯 変更	移植水稻	アゼガヤ：九州 近畿・中国・四国、九州 キシウスズメノヒエ： 関東以西の普通期 関東以西	
	アグロス クリンチャー EW	使用時期 変更	移植水稻	全域(北陸を除く)について 「移植後20日～ルI6葉期 但し、収穫30日 前まで」に変更	
		雑草追加	移植水稻	アゼガヤ(九州)	
植調剤	スミセブンP 液剤	作物追加	ゼラニウム	茎葉の伸長抑制 による小型化	25～50倍 0.5～1mL/株 育苗期本葉2～4葉期 1回 茎葉散布
			日々草		50倍 0.5～1mL/株 定植後本葉3～4節時 1回 茎葉散布
			はぼたん		10倍 2mL/株 育苗期本葉2～4葉期及び鉢上後 2回 茎葉散布
			パチュニア		25～50倍 0.5～1mL/株 育苗期本葉2～4葉期 1回 茎葉散布
			まつばまつたん		12.5～25倍 0.5～2mL/株 育苗期本葉2～4葉期 1回 茎葉散布
			マリーゴールド		10倍 0.5～2mL/株 育苗期本葉2～4葉期 1回 茎葉散布
					5～10倍 0.5～2mL/株 鉢上後 1回 茎葉散布

植調 剤	スミセブンP 液剤	作物名変更	つつじ類 (鉢栽培)	「つつじ(鉢栽培)」「しゃくなげ(鉢栽培)」「つつじ類(鉢栽培)」に変更
		使用時期 変更	てんさい	「移植2~3週間前」 「本葉抽出期(本葉長2mm以上)~移植2週間前」 に変更

(佐伯・南)

[目次へ戻る](#)

## 病害虫発生情報

8月末~9月初めに各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

注意報(8月30日)佐賀県/水稻(普通期栽培)/トビイロウンカ

警報(8月31日)宮崎県/普通期水稻/トビイロウンカ

注意報(9月3日)長崎県/普通期水稻/トビイロウンカ

当社ウンカ類登録剤:アプロードパダン粒剤、スミチオン乳剤、粉剤2、3DL、スミバッサ乳剤75、粉剤20DL、粉剤50DL、ダントツ水溶剤、粒剤、粉剤DL、H粉剤DL、フロアブル、パダントレボン水和剤、粉剤DL、粒剤L、パダンバッサ粉剤DL、粒剤、パダンミブシン粒剤、ベストガード水溶剤、粒剤、ルーバンM粒剤、MR・ジョーカーEWをお勧めします。

特殊報(8月30日)埼玉県/カキ/カキノヒメヨコバイ

当社登録剤:ダントツ水溶剤をお勧めします

注意報(8月31日)香川県/いちご/イチゴ炭疽病

当社登録剤:ゲッター水和剤をお勧めします。

注意報(8月31日)茨城県/ダイズ、野菜類、花き類、ソバ/  
ハスモンヨトウ

当社登録剤:ダイズ:パーマチオン水和剤、フローバックDF、  
プレオフロアブル、MR・ジョーカーEW、ランネート45DF。

野菜類:ゼンターリ顆粒水和剤、フローバックDF。

花き類:なし

ソバ:ゼンターリ顆粒水和剤をお勧めします。

注意報(8月31日)鹿児島県/イチゴ/ハダニ類

当社登録剤:粘着くん液剤、オサダンフロアブル、オサダン水和剤  
25、スカイマイトくん煙剤、ロディーくん煙顆粒、ロディー乳剤  
をお勧めします。

注意報(8月31日)徳島県/ネギ/シロイチモジヨトウ

当社登録剤:アグロスリン乳剤、アディオン乳剤、フローバックDF、  
プレオフロアブルをお勧めします。



トビイロウンカ



ハスモンヨトウ老齢幼虫



ハスモン被害葉

☆特殊報（9月3日）奈良県/トマト、ミニトマト、ナス/タバココナジラミ パイオタイプQ  
 当社登録剤：粘着くん液剤、ダントツ水溶剤、ダントツ粒剤、ベストガード水溶剤、ベストガード粒剤をお勧めします。

☆注意報（9月3日）長崎県/茶/カンザワハダニ、チャノキイロヒメヨコバイ  
 当社登録剤（カンザワハダニ）：オサダン水和剤25、オサダンフロアブル、DDVP乳剤75、粘着くん液剤、ビルク水和剤、ボルテージ乳剤をお勧めします。

当社登録剤（チャノミドリヒメヨコバイ）：アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、スミロディー乳剤、ダントツ水溶剤、パダンSG水溶剤、ビルク水和剤、ベストガード水溶剤、ロディー乳剤をお勧めします。

☆注意報（9月6日）佐賀県/イチゴ/ハダニ類

当社登録剤：オサダン水和剤25、オサダンフロアブル、スカイマイトくん煙剤、粘着くん液剤、ロディーくん煙顆粒、ロディー乳剤をお勧めします。

☆注意報（9月6日）佐賀県/イチゴ/うどんこ病

当社登録剤：サプロール乳剤、ポリオキシシAL水溶剤をお勧めします。 （鈴木）

[目次へ戻る](#)

## 今月のご相談から

### 秋野菜の定植時にダントツ・ベストガード粒剤

**Q：**秋野菜で、育苗期や定植時に使用できる殺虫剤について教えてください。

**A：**秋野菜の生育初期の害虫防除は適期を逃がすと思わぬひどい被害を受け、収穫や品質に大きく影響します。初期防除として定植時や育苗期後半に処理をして長期間害虫の発生を抑える剤に「ダントツ粒剤」と「ベストガード粒剤」があります。両剤ともネオニコチノイド系殺虫剤で有機りん剤・カーバメート剤・合ピレ剤などとは全く異なったユニークな殺虫作用を持っており、吸汁性のアザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類に極めて高い効果があります。

また、ダントツ剤はそれらの害虫以外にりん翅目害虫のコナガ・アオムシにも効果があります。ダントツ粒剤のキャベツでの使用方法はポット苗・セル苗の育苗期後半に株当たり0.5gを株元に処理をし、そのまま定植をします。アオムシ・アブラムシ類・コナガ・ネキリムシによる被害を長期間防除できます。レタスではポット苗・セル苗の育苗期後半に株当たり0.5gの株元処理で、アブラムシ類による被害を長期間防除できます。

ベストガード粒剤ではレタスのポット苗・セル苗の育苗期後半に株当たり1gの株元処理で、問題害虫のナモグリバエを長期間効果的に防除することが出来ます。両剤ともその後の生育期に必要なに応じて散布が出来ます。以上、省力的で初期生育時に防除効果の高い処理方法をお奨めいたしました。

（富樫）

[目次へ戻る](#)



# 最近の「お・・美味しい!!」



弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい!!」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、  
毎月「これぞ!」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪♪

## 好きな具と好きなソースで

ものすごく暑かった「夏」の勢力も影をひそめ、やっと涼しくなってきましたね。

突然ですが、皆さん「たこ焼き」はお好きですか?そう、お祭りの屋台等でおなじみのアイツです。我が家には「たこ焼き(作り)器」なるものがありますが、先日は遊びに来た友人



と、たこ焼きパーティをしました(←実は他のおつまみを作るのが面倒だっただけ(笑))。

**果**たこ焼きですから、具はタコと決まっていますが、それだけじゃ面白くない!ということで半ば実験的にいろんなモノを入れてみました。その結果、最も人気のあったのが「キムチ納豆+ポン酢ソース」。これは旨い!これをおかずにご飯が欲しいぞ(笑)!!そして他にもおかず系で「おつまみチーズ+タコスソース」「冷凍

### 案外キレイに丸まります

シュウマイ+スイートチリソース)、甘いもの系では「さつまいも」「ゆで落花生」、変り種で「ぬれおかき」、そして美味しかったけど形が作れず失敗した「水ようかん(←熱で溶けた)」・・・**果**

もはやここまで来ると「たこ焼き」では無くなっていますが(笑)、具とソースでバリエーションが無限に広がる「たこ焼き」ってすごいですね。加えて、みんなで「くるくる」回しながら作るのもまた楽しいものです。たこ焼き器をお持ちの方は是非「キムチ納豆+ポン酢」作ってみてください。(納豆好きな人なら)きっとハマるはず!(佐伯)



### 不思議?な具たち(笑)

[目次へ戻る](#)

**コラム・そば談義**

最近、帰宅するとすぐにステテコ姿になり、冷えたビールを飲みながら朝の連続ドラマ「どんど晴れ」をビデオでみている。

このドラマが好きな理由のひとつに、テーマ曲と共に流れる岩手山（別名：南部富士）の映像がある。仙台赴任時代、盛岡に出張の際は市内を流れる北上川の近くから、この山を眺めるのが好きだった。四季の移り変わりと共に表情が変わり、特に好きな季節は早春である。雪解け水が豊かに流れ、川岸にネコヤナギが咲き、多くの雪を抱いた岩手山は清々しく雄大で、眺めていると気分まで大らかにしてくれたように思う。

ドラマのストーリーは主人公の夏美が色々なことを乗り越え、若女将として成長していくものであるが、このドラマの根底に流れるテーマは相手を敬い、思いやりの気持ちを持ち、笑顔で迎え入れる『もてなしの心』すなわちホスピタリティー精神である。ドラマの中の女将や若女将の演技から、ふと、そば屋の仲居さんを思い出すのである。繁盛しているそば屋さんには決まって機転の利く仲居さんがいる。暖簾を潜るとよく通る明るい声で、「いらっしゃいませ！どうぞこちらの席に！」と案内してくれる。そして、「暑かったですね！生ビールにしますか？今日は活きのいい魚が入っていますよ！」などと客層に合わせて料理を選んでくれる。また、「人数分だと多すぎるので2人前ぐらいにしましょうか！」とか、料理の進み具合で、追加の品まで気遣ってくれる。そして、皆が一通り落ち着いた頃、「もうすぐラストオーダーになります。今の内におそばを頼んでおいたらどうでしょうか？」と、そつがない。そんな仲居さんをよく観察すると、無理に料理を勧めるのではなく、お客さんの身になって提案しているのである。だから、客の方でも自分で選んだという気分になり、それが美味しいとより満足するのである。

そんなそば屋の仲居さんは、日頃お客様と接して「もてなしの心」を体得したのであろう。我がお客様相談室も、お問合せの受け応えは、『おもてなしの心』ホスピタリティー精神と岩手山を眺めたときのあの大らかな気分になって、笑顔で対応したいものである・・・(古津)

**編集後記**

先日、東京大手町にあるJ Aビルで「改正卸売市場法下で農協共販は生き延びることが出来るか」というテーマの講演会を覗きにいった。

その中で、感じたことは法律改正に危機意識をもって取り組んでいる農協とそうでない農協で大きな差が感じられた。農協の大きな収益の一つは集荷事業である。生産者が農協に出荷した青果物に対し手数料が農協に入る仕組みである。しかし、市場法改正で手数料が自由化になると卸売会社は経営が厳しくなる。そこで、当然だが利益を出すために産地から安く仕入れて高く売るようになる。それは、農協とある意味で競合関係になる。今後、農協によっては市場から安く買い叩かれ、十分生産者に利益を還元出来ないところも出てくるだろう。そんな農協の組合員は農協から離れ、商社や量販店と取引することになる。そこで農協によっては、経営が厳しくなり不測の事態にもなりかねない。今後、各農協は卸売市場法改正にどう対応していくのか経営手腕が試されることになる。



[目次へ戻る](#)